



TIAは(財)栃木県国際交流協会(Tochigi International Association)の略称です。

ペルー アレキパ歴史地区



世界遺産シリーズ vol.27

W O R L D H E R I T A G E

〈アレキパ歴史地区〉首都のリマから南へ約1,000Kmの内陸に位置し、別名「白い町」とも言われている。町の中心にあるアルマス広場では、現地の白い火山岩で作られたカテドラルなどの建物が美しく並ぶ。(写真提供:ペルー大使館)

2004 No.88

TIA NEWS  
TIA NEWS  
TIA NEWS  
TIA NEWS

8

AUGUST

SUMMER

やあ!特集 外国人の強〜い味方 相談員の活躍

とちぎで暮らして… アサニード サベドラ ホルヘ ウィルソン さん(ペルー)  
世界をペロリ マレーシア料理「ナシ レーマ」  
あんな店こんな店 バリ島・手づくり家具 J-WOOD  
心に残る私の写真 グアテマラ 石塚利子さん  
国際理解への扉 「メディアリテラシー」



財団法人栃木県国際交流協会  
Tochigi International Association

ホームページ ■ <http://tia21.or.jp> メールアドレス ■ [tia@tia21.or.jp](mailto:tia@tia21.or.jp)

## アサニード サベドラ ホルへ ウィルソンさん (21歳) Azanedo Saavedra Jorge Wilson



### プロフィール

ペルー・トゥルヒージョ市出身。9才のときに家族で来日。両親と妹は福島県に在住。おしゃべりとツーリングが大好きな大学生。宇都宮市在住。

—ウィルソンさん、こんにちは。日本の生活が長いですね。  
ウィルソン そうですね。日本で小学校、中学、高校、大学と来たので、友達も日本人が多いです。9才で来日しましたが、それ以来ペルーには一度も帰ったことがないんです。

—日本での学校生活はどうでしたか。

ウィルソン ペルーにいたときから父の転勤が多かったので、日本への転校もまたかといった感じでした。小学校では珍しさからか、みんな僕のあとにくっついてきて、いろいろ話しかけてきました。ペルーの子どもは外で遊びますが、日本ではゲームなど室内が多いので、それに合わせるようにしました。中学・高校では、話しかけると逆に戸惑われましたが、めげずにどんどん話しかけるようにしました。大学は、みんな大人な



▲ウィルソンさん一家

ので、友人たちとは落ちついた関係を築いています。

—日本人みたいになったなあと思うときはありますか。  
ウィルソン あります！味噌汁が好きで、具は豆腐じゃないとだめですね。これって日本人みたいだなんて思います。逆にやっぱり外国人だなんて思うときは、文化やしきたりが分らなかったときですね。

—そういった中での戸惑いはないですか。

ウィルソン どっちつかずの人間になりそうで、心配になることもありました。でも、あまりつき詰めて、どちらの国も嫌いになってしまうようでは、馬鹿らしいですよ。僕は他の文化をいつでも受け入れられ、どこに行っても適応できる自信があります。だからこそ、今ではとても気楽に考えています。



▲子ども向けイベントに参加

—大学卒業後は何をしますか？

ウィルソン 外国で大学まで入れた自分をとてもラッキーだと思います。この先も日本でうまくいけたらいいと思っていましたが、ラッキーは大学までだったということが就職活動して初めて気付かされました。日本では、能力より外国人であることが重視されてしまい、うまく活用してもらえないようです。卒業後は、アメリカに留学し、航空力学を学び、実力だけで勝負できればいいと考えています。

## 世界をパロリ

このコーナーでは世界のおいしい食べ物をレシピ付で紹介します。

### マレーシア料理「ナシ レーマ」

材料 (1人分)

- |       |      |        |        |
|-------|------|--------|--------|
| タイ米   | 1カップ | A      |        |
| ココナッツ |      |        |        |
| パウダー  | 大さじ2 |        |        |
| 干し鰯   | 20g  |        |        |
| キャベツ  | 葉2枚  |        |        |
| 卵     | 1個   |        |        |
|       |      | おろし玉ねぎ | 1/4個分  |
|       |      | チリパウダー | 大さじ1   |
|       |      | 砂糖     | 小さじ4   |
|       |      | 塩      | 小さじ1/2 |



料理を作ってくれたのは、帝京大学留学生の左からシャラさん、チュンさん、ヌルさん。「ナシ レーマ」とはココナッツごはんという意味だそう。本国の屋台でなら100円で食べられるらしい!!



炒めた鰯のパリパリ感が最高



①お米をといで、ココナツミルクパウダーを水180ccに溶かして入れて炊く。



②干し鰯の骨を除きながらこまかく割く。



③②を油で茶色くなるまで炒める。



④③にAを入れ水気がなくなるまで炒め、ご飯のわきに添える。キャベツと卵をゆでて付け合わせる。

# ようこそとちぎへ！ Welcome to Tochigi

栃木県と友好提携をしているインディアナ州にある“インディアナ大学（IU）”の学生6名が県内大学生との交流やホームステイ、日本文化体験のため来県しました。

- ①名前 学年 性別  
②専攻 ③どんな人??



- ①Laura Woods ローラ ウッズ  
4年 女性  
②人類学  
③キティちゃんが好き！リュックとかペンダントもキティ！マンガが好きでマンガ書店でバイト中。



- ①Allen Andreas  
アレン アンドレアス  
3年 男性  
②政治学  
③自然が好きなので、日光には魅了されたとか。なるべく日本語で話そうと頑張ってる。



- ①Kyle McLain カイル マクレイン  
3年 男性  
②テレビゲームデザイン  
③4文字熟語や日本語独特の言い回しが得意。ぎょうざの感想は「前代未聞のおいしさ！」だとか。



- ①Stephen Costlow  
スティーブン カストロウ  
2年 男性  
②中等教育、情報技術  
③日本語は1年半勉強してるが、まだ自信がない。来日をきっかけに留学を希望。



- ①Nathan Dodge ネイサン ドッジ  
3年 男性  
②スタジオアート、テレコミュニケーション  
③シャイだけどノリがいい。日本語会話力アップが来日の一番の目的。日本の友達も欲しい！



- ①James Conover  
ジェームス カノーヴァー  
2年 男性  
②教育  
③日本語がもっと話せるようになりたい！将来は日本で働きたいとのこと。



バリ島の雰囲気そのまま体験できるようなお店が今年4月にオープンした。店内に足を踏み入ると賑やかなバリの音楽が心地よく流れている。

置いてある商品でまず目を惹かれるのが家具だ。モダンスタイルのものが中心で、どれも温かみがありおしゃれなデザインばかりで、和室にも洋室に合いそうだ。どの家具もランプなどの小物と共にリビングのようにディスプレイされ、実際に部屋でどのように演出すればいいかわかりやすい。

さらに、バリ・コーヒーのサービスがあり、好みの家具でくつろぎながら飲むことができる。運ばれてきたバリ・コーヒーの香りをどう表現したらよいのだろう。独特の香ばしい、南国の朝のような…とすっかりバリに酔いつつ一口飲むと、見た目よりまるやかなすっきりとした味だった。このようなサービスも「バリを身近に感じ、楽しんでもらいたい」とコーディネーターの山田美穂さんが語るように「くつろぎ」がテーマらしい。



さらに現地の自社工場で作ることにより低価格を実現し、2～3万円程度の家具が多い。またオーダーも受け付けている。

ゆったりくつろいだあとは、広い店内をめぐってみた。人気商品はかごやランプ、織物のイカット。かわいいかごのバッグや洋服もある。他にもフローティングフラワーは夏の涼を気軽に演出してくれそう。チリソースやインスタントラーメン、コーヒーなどの食品類も品揃い豊富だ。

この夏、バリの気分を満喫できるこの空間、おすすめ！

- ①おしゃれな家具で住みたくなる！  
②小物もいっぱい、ゆっくり見よう  
③食べ物も色鮮やかで南国っぽい  
④大小さまざまなかごが並ぶ  
⑤この椅子座ってみたいかならうでしょう？

## 「バリ島・手づくり家具 J-WOOD」

営業時間 10:00～19:00

定休日 水曜日

住所 宇都宮市下川俣町105-1

T E L 028-683-3046

H P www.j-wood-jp.com



# 外国人の強～い味方 相談員の活躍

水曜日の昼下り、さまざまな相談を抱えた外国人が続々とやってくる。ここは、真岡市役所の外国人相談係。真岡市は、大きな工業団地などがあることから、人口に対する外国人比率が県内で群を抜いて高い。外国人も多ければ、困りごとを抱えた外国人も当然多くなる。そのような現状を踏まえ、真岡市役所では毎週水曜日の午後2時から5時まで外国人向けの相談を受け付けている。

市役所正面のカウンターでこやかに迎えてくれるのは、ブラジル生れブラジル育ちの日本人、呉田千歳さん(74才)だ。呉田さんは15年ほど前に来日し病院の通訳などの仕事をを経て、3年前から真岡市役所で相談員として活躍している。相談内容としては税金、生活一般、医療福祉などが多く、1か月約38件の相談を週1回でこなしている。相談の内容に応じて担当課につなげ、そこでの



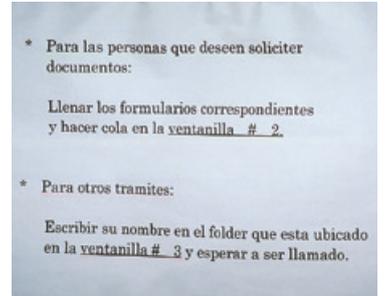
▲優しい眼差しの呉田さん

回答を通訳することも多いという。市役所全体で外国人相談とうまく連携し、いわゆるたらい回し状態には絶対にならない仕組みとなっている。

## 昼夜問わずの電話

呉田さんは自宅の電話でも相談などにのっている。夜などは子どもが病気になったが、どうすればいいかといった切羽詰った内容が多い。長年、病院で通訳をした経験から、症状を聞いてどの病院がいいか、何をすればいいかなどをアドバイス

している。「毎日のようにかかってくる電話が面倒になることはないのか。」そんな疑問をぶつけてみると「健康で人の役に立つことができるのは、幸せなこと。嫌なことを言われても経験が増えたと思えばいいだけ。」栃木県に住むブラジル人にはこんな味方がいるのかと頼もしくなった。



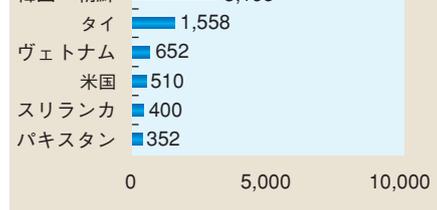
▲カウンターの掲示も外国語で

## 栃木県の外国人登録者数



(栃木県国際交流課発表)

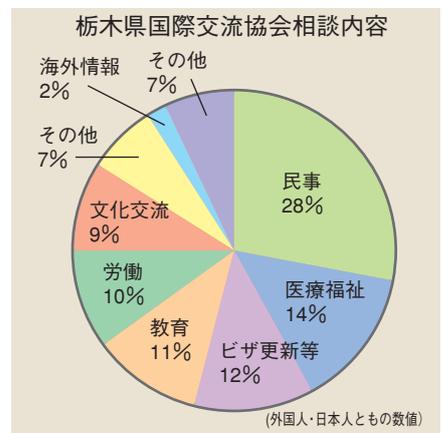
栃木県全体の外国人の数に目を向けると、平成15年12月末日現在における外国人登録者数は、31,549人で毎年増加傾向にある(図1参照)。国籍別では最も多い順に、ブラジル、中国、ペルーと続く(図2参照)。これは登録外国人の数であるので、登録されていない外国人も視野に入るとこの数はさらに膨らむものと思われる。



(栃木県国際交流課発表)

## 外国人の相談内容

日本に滞在する期間が長くなればなるほど、抱える問題も複雑になってくることは容易に想像できる。栃木県国際交流協会でも外国人向け相談事業を毎日行っている(本誌最終ページ参照)。外国人、日本人双方からの相談を受け付けているが、具体的には



(外国人・日本人ともの数値)

どんな相談が多いのか。外国人、日本人ともにダントツに多いのが、民事的な相談。家庭内の問題や交通事故、金銭トラブルなどだ。中には仕事上の怪我の未補償や弁護士に相談しなければならなくなるような深刻な例もある。相談員は個々の問題を冷静に把握し、問題解決のための方向性を示すこととなる。法廷通訳人としても活躍している、当協会ペルシャ語通訳協力者の小松孝子さんは「日本人には大したことなくとも、外国人にしてみれば藁をもつかむ思いで相談にやって来る。その思いを理解しなければならない」と語る。一方で答えを求めずに、ひたすらしゃべりまくる来訪者もいる。気持を吐きだし、ただ話を聞いてもらえるだけで救われる外国人も多いのだ。

## 相談員はパラグアイのお医者さん

設楽忍さん(53才)は、5才のときに家族でパラグアイに移住した。その後現地の大学医学部を出て、厚生省管轄の病院に勤務し、慶応大学病院の産婦人科に留学した

## 悩める外国人の道しるべ

経歴も持つ。しかし大統領の交替時に転機が訪れた。仕事が極端にやりずらくなり日本行きを決意したのは、今から12年前の話だ。その設楽さんの現在の勤務先が足利市役所。足利市は県内で3番目に外国人人口が多い。国籍別では、ブラジル人が最も多く、フィリピン、ペルーと続く。ブラジルはポルトガル語、ペルーはスペイン語が公用語だが、設楽さんは両方の言語を話せるので、多くの外国人に対応することができる。

設楽さんは毎日市役所で外国人の通訳、相談にあたっている。驚くのはその件数だ、去年は年間で3,647件の通訳・相談にあたっている。群馬県と隣接していることから、県外からの来訪者もかなり多い。遠いところでは、京都府、福井県からも設楽さんに相談にやってくる。「広くから人が集るのは、ひとえに設楽さんのお人柄でしょう」と秘書政策課の坂本正昭係長。足利市のみならず周辺の外国人にも助けの手をさし述べる何とも大らかな姿勢だ。

### 相談員の心配ごと

設楽さんに、現在の相談傾向を聞いてみた。「今、私が一番心配しているのは、外国人の子どもたちの将来です。学校へも行かず働きもしない子どもが増えています。」このような子どもたちは自分のアイデンティティが見つからないでいる。この子どもたちはいずれ国に帰るが、両親の国の言葉もできず、日本語の勉強も中途半端な状態の中、待っている将来は暗いと設楽さんは指摘する。相談に来る人たちに、必ず子どもの教育について話すという。このままではいけない、子どもの話を聞いてあげてほしいと。しかし日本で精一杯働き、忙しい毎日を送る外国人は、そんな設楽さんの助言に耳を貸さない人が多いのだそうだ。



▲誠実に話を聞く設楽さん

設楽さんの活躍は、ほかにもある。外国人のための足利市のガイドマップの翻訳や医療関係者向けの「外国人診療用語ガイド」の作成だ。このガイドは医療現場で使われる頻度の高い単語・表現が、スペイン語とポルトガル語で書かれている。医師免許を持つ設楽さんが細部まで気を配っている一冊だ。ほかにも群馬県国際交流協会主催のブラジル人向けの精神保健についての講演会の通訳も頼まれている。

ボランティア活動も熱心で、遠くは浜松の方まで出張相談を行っている。「ニュースを見れば、少年事件も多く報道されている。犯罪は家族や市民の問題でもあるので、自分が何かしなければと思っているんです。」こちらの質問を最後まで聞き、一つ一つ丁寧に答えてくれたのが印象的だった。



## 在県タイ人のお母さん

宇都宮市内で、毎週日曜日にタイ人だけが集る日本語教室「日・タイことば教室」がある。主に日本人と結婚したタイ人女性が多く、家庭内などでのコミュニケーションが上手くいくよう日本語



▲タイ語も交えて教えるタラトーンさん

を勉強している。ここでボランティアとして講師を務めるのは、同じくタイ人である長嶋タラトーンさん(55才)だ。十数人いる学習者は口コミで集まってきたり、タイ語で作成された教室のチラシをタイ料理のレストランなどで見て来たりしている。質問も活発なとても楽しい教室だ。

タラトーンさんはとにかく忙しい。携帯電話は日本にいるタイ人のホットラインになっている。家庭内のトラブルなどの相談がしょっちゅう携帯電話にかかって来るので、寝るときも電話を枕もとに置いておくという。相談の電話と言っても回答をしてあげるような内容のものは少なく、タラトーンさんに話を聞いてもらいたい人が多い。しばらく耳を傾けてあげるとすっきりして電話を切るらしい。

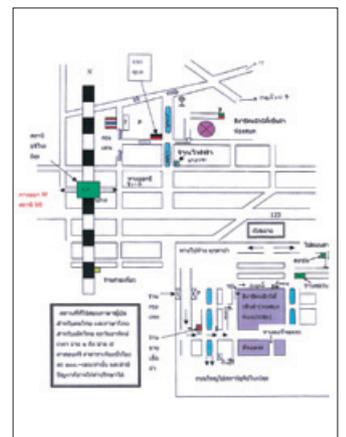
### タイ人妻の悩み

日タイ国際結婚の難しさはどこにあるのか聞いてみた。タイでは男女平等の考えが深く浸透している。日本で親と同居という場合は、世代間のギャップもあり我慢やストレスは相当なものだという。さらに金銭面でのいき違いもある。タイ人が生活費という、家賃と食費を思い浮かべるのでその分しか夫に請求しない。しかし生活する中で保険や新聞代などの日常経費が結構かかることに気付く。それで後から生活費をもっと請求すると言葉の不自由も手伝って誤解を招くという。日本人と結婚していてビザもあるのに、お金に困っているというタイ人妻が結構多く、日本人の夫の理解が必要だとタラトーンさんは指摘する。

そんな中での日本語教室は、言葉を覚えられるばかりでなく、情報交換の意味でもとても重要な役割を果たしている。

タラトーンさんの活動はまだある。県内の日本人の知人がタイの子どもたちの里親となって援助するプログラムを立ち上げた。この里親とタイの子どもたちとの約140通もの文通の翻訳を定期的に引き受けている。

ボランティア活動を始めたのは10年前。「子どもが小さかった頃は、助けを求められても自分のことで忙しく、よくしてあげられませんでした。今では、私が相談にのった人が幸せに暮らしているのが分かったときが一番嬉しいですね。」タラトーンさんに助けられたタイ人はたくさんいるのだろう。人知れず苦しんでいる外国人の強い味方がここにもいた。



▲日・タイことば教室のチラシ

# 心に残る私の写真♡ My Memories・・・

このコーナーでは、日本や海外で異文化に触れたときの写真を、そのときのエピソードとともに紹介します



写真を提供してくれたのは、宇都宮市在住の石塚利子さん。青年海外協力隊で洋裁を教えるためにグアテマラに赴任していたときの写真を紹介してくれました。

## 手作りバッグの男性と

サン・ファン・アティタンという西部の村で大きなお祭がありました。私が住んでいたところから、未舗装の道路を車に揺られること1時間半。お尻の痛みにそろそろ耐えられないな～って頃に到着。祭りの民族衣装や村の雰囲気を楽しめました。

私とツーショットで映っている男性は現地の方で、私がバッグからカメラを出すと写真を撮ろうと言ってきました。この人たちは、自分でバッグを手作りします。彼はなぜか私に布だけプレゼントしてくれました。



## 甘～い送別会

私が教えていた洋裁クラスの生徒たちが送別会をしてくれました。このクラスは12才の小学生から50才の女性までいて賑やかですが、みんな目的意識をもって真剣でした。

送別会は、近くの大きな公園でパインケーキを食べました。甘いパイナップルをさらに砂糖漬けしたスポンジケーキでしたが、しっかり完食しました！

このコーナーで紹介する写真とエピソードを募集しています。詳しくは、協会までお問合せください。(TEL 028-621-0777)

## 情報発信

### 国際協力フォトコンテスト作品募集

この夏のアルバム  
つくりませんか

JICA  
国際協力  
フォト  
コンテスト  
第25回

<http://www.jica.go.jp/>

国際協力機構では、開発途上国の人々の暮らしや自然、また国際協力の現場での写真を広く募集しています。

#### ■募集テーマ

- ①国際協力…日本人と開発途上国の人々との技術協力や交流の現場を撮影した写真。
- ②一般…開発途上国の自然や文化の中で生きる人々を撮影した写真。

#### ■賞

- ①JICA理事長賞 賞状、賞金10万円他
- ②国際協力賞 賞状、賞金2万円他
- ③一般賞 賞状、賞金2万円他

#### ■募集締め切り

平成16年9月24日（金）必着

#### ■応募・問合せ先

〒160-0023  
東京都新宿区西新宿6-10-1  
日土地西新宿ビル19階  
（財）日本国際協力センター開発業務部内  
「JICA国際協力フォトコンテスト」係  
Tel.03-5322-2554  
Fax.03-5322-2590  
E-mail photo@jice.org

### 中学生の作文コンテスト作品募集

作文を通して、国際協力や国際社会のあり方について理解を深める目的で、作文コンテスト栃木県大会を実施します。

#### ■作文テーマ

「私たちが拓く未来の国連」「国際協力と日本」、「世界平和と国連」のうちの一つ。

#### ■原稿

400字詰め原稿用紙4枚以内。

#### ■賞

優秀賞、優良賞、佳作  
優秀賞作品は全国大会へ推薦。

#### ■募集締め切り

平成16年9月9日（木）必着

#### ■応募・問合せ先

〒320-0033 宇都宮市本町9-14  
（財）栃木県国際交流協会内  
日本国際連合協会栃木県本部  
Tel.028-621-0777  
Fax.028-621-0951  
E-mail tia@tia21.or.jp

## 新規留学生のためのガイダンス



県内の大学などに留学する新1年生を対象に、協会の事業や留生活のアドバイスなどを行うガイダンスと交流ティーパーティーを5月15日(土)とちぎ国際交流センターで開催した。ガイダンスでは、栃木県の概要、栃木県国際交流協会の事業説明に続き、先輩留学生によるパネルディスカッションも行われた。パネリストは、国際医療福祉大学のアルチャナ・プラドハンさん(ネパール)、作新学院大学の鄭国鋒さん(マレーシア)、那須大学の沈彦赫さん(中国)、白鷗大学の林明基さん(韓国)の4名。学内外で母国語を教えるなどで、日本人との交流ができることや、分らない日本語があれば勇気を出して、直接日本人に聞いてみるのが大切などのアドバイスがあった。

## 国際交流団体連絡会議

栃木県国際交流協会に登録されている県内の国際交流団体の連絡会議を、6月9日(水)とちぎ国際交流センターで行った。協会の事業案内や各種情報提供のあとは、「外国人とのコミュニケーションについて」「活動財源の確保について」「他団体との連携について」「日本語教育について」の4つの分科会に分れて情報交換やディスカッションを行った。

## 第7回「わいわい地球っ子クラブ」

### ～アミーゴス😊ペルー～

今回は南米のペルーをテーマに、6月12日(土)に、とちぎ国際交流センターで行った。56名の元気な小学生が参加した。ペルー人の帝京大学生のアサニード・サベドラ・ホルヘ・ウィルソンさんと同じく宇都宮大学留学生のイルマ・フローレス・フローレスさんに協力を得て、国の説明や言葉を学び、ペルーの遊びや踊りを体験。最後にス



トローでサンポーニャという楽器を作ってペルーを満喫した。

## 国際理解教育 ファシリテーター養成講座



国際理解教育を実践するファシリテーターを養成する講座を6月26日(土)、7月3日(土)にとちぎ国際交流センターで行った。講師の桜井高志氏(桜井・法貴グローバル教育研究所代表)は、様々な手法で国際理解教育の意味やファシリテーターの役割等を分かりやすく説明した。(参加者33名)

## 国際理解への扉 道の〜語訳国

### 今回のテーマ…「メディアリテラシー」

最近「メディア」という言葉は「マスコミ」という言葉と同じように目にしたり耳にしたりすることが多くなりました。「メディア」とはテレビやラジオ、新聞や雑誌などの他に、インターネットや映画、パンフレットなど、私たちの情報源となっているもの、情報を伝達する「媒体」のことです。「リテラシー」とは読み解き、活用する能力のことです。つまり「メディアリテラシー」とは「メディアを使いこなす能力」のことです。テレビやインターネット、携帯電話など、新しいメディアの誕生と共に膨大な量の情報が私たちの周りにあふれるようになってきましたが、そこから流れる情報は「事実の一部」ではあるけれども「全ての真実」を表しているわけではありません。文字数や時間など、制限のある中で伝える情報は、決して

て私たちに全ての情報を伝えきれているわけではありません。この紙面で伝えられる「メディアリテラシー」についても、もっと多くの情報があるわけですが、ほんの一部分しかみなさんにお伝えできません。

また、イラク戦争では「メディア戦争」と言われるほど、アメリカのメディア、イラクのメディアがお互いに、イメージの形成や国際情勢の認識過程に大きな影響を与えてきました。私たちも日本にいながら、さまざまな情報が入ってきました。これからの情報化社会では、それを適正に、主体的に、また批判的に読み解く能力を育成する必要があるのではないのでしょうか。

### JICA国際協力推進員

栃木デスク(栃木県国際交流協会内) 佐藤玲子

国際理解関連の「用語」について、わかりやすく解説します。知ってるつもりで使っているのに実はよく知らない、そんな用語のご質問をお待ちしております。(☎028-621-0777)



### 国産第1号機の実績と信用



情報マシンとシステム販売

**栃木システム販売株式会社**

代表取締役 大金 幸司

本社 〒321-0933 宇都宮市築瀬町1785  
電話 (028) 637-1933(代) FAX (028) 634-4191

## 公益法人支援システム 公楽

- 総合的に会計業務を支援し、事務作業の大幅な省力化を約束します!
- 複雑な公益法人会計も、このシステムがあれば解決!

**FUJITSU**  
パートナー  
株式会社 ケイエムシー

〒321-0942  
宇都宮市峰1丁目15番6号  
TEL 028-632-5111(代)  
FAX 028-633-7269  
URL : <http://www.k-m-c.co.jp>

## とちぎ留学生奨学金 合格者決定!!

### とちぎ留学生奨学金とは…

栃木県国際交流協会と栃木県が連携し、企業から寄付を募り、経済的に困難な留学生に対して支援を行い、栃木県と母県との懸橋になってもらおうというもの。

去る6月15日に奨学金の選考会が行われた結果、以下の留学生2名が選ばれました。

- ・宇都宮大学大学院  
国際文化研究科1年  
趙 春花(女性)さん(中国)
- ・足利工業大学大学院  
工学研究科2年  
郭 亜珍(女性)さん(中国)

## TIAの国際理解クラブ 会員大募集!!

### 高校生のための

### ● Club lycée

参加者からのアイデア大歓迎!  
国際的視野を身につけよう!!

**活動内容** 参加型セミナー、外国人との交流など

**活動日** 奇数月の第4土曜日

**年会費** 無料

### 小学3～6年生のための

### ● わいわい地球っ子クラブ

同じ地球で生活する仲間として、一緒に世界を学ぼう!!

**活動内容** ゲーム、料理、工作、外国人との交流など

**活動日** 6・9・12・3月の第2土曜日

**年会費** 1,000円

**お問合せ** (財)栃木県国際交流協会  
TEL 028-621-0777

## フィリピン文化を体験しよう!

在県フィリピン人と料理を作りながら楽しく交流しましょう…

**日時** 9月18日(土) 13:30～

**場所** とちぎ国際交流センター  
(下記地図参照)

**内容** フィリピン料理づくり  
・パンシット(ビーフン料理)  
・ティナパイ(サンドイッチ)  
・フルーツサラダ

**参加費** 500円

**定員** 15名

**主催** 国際パガサの会

**共催** (財)栃木県国際交流協会

**問合せ・申込み**

(財)栃木県国際交流協会

☎028-621-0777

## 栃木県国際交流協会 事業案内 Tochigi International Association(TIA)

～とちぎ国際交流センターの交流ラウンジ・図書閲覧室は  
どなたでも気軽にご利用できます～

### ■相談事業

在県外国人をはじめ県民の皆さまの国際交流・国際協力に関する相談に専門の相談員が応対

### ■機関紙の発行・情報提供

TIAニュース「やあ!」や在県外国人向け外国語情報紙の発行  
とちぎ国際交流センター内には情報交換のためのメッセージボードの設置

### ■各種イベント・講演会

国際交流促進や国際協力意識高揚を目的とした各種イベントや講演会の実施

### ■TIA協力者バンク

ホストファミリーバンク、インストラクターバンク、トランスレーターバンクの運営

### ■とちぎコミュニケーションネットワーク(TCN)

在県外国人のネットワーク。イベント等の情報提供、国際理解講座等への協力

\*この他さまざまな事業を行っておりますので、お気軽にお問合せください。

\*とちぎ国際交流センターの交流ラウンジ・図書閲覧室はどなたでも気軽にご利用できます。会議室等の施設利用についてはご相談ください。

## <新規賛助会員の方々>

団体：メトロ国際交流協会

個人：小倉 学

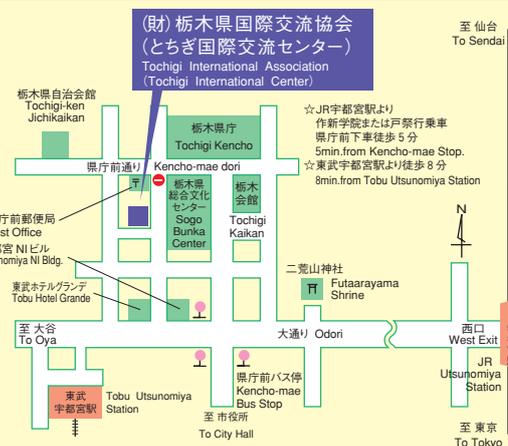
～ご入会ありがとうございます～

財団法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人(寄付金の損金算入等の課税特別措置)の認定を受けています。当協会の事業にご賛同くださる各企業、団体等のご出捐をお願いいたします。

## <協会人事異動のお知らせ>

国際交流相談員ポルトガル語担当として本多辰子エリーザが就任。

## TIAご案内図



編集・発行 財団法人栃木県国際交流協会  
住所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内  
TEL 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)  
FAX 028-621-0951  
業務時間 8:30～17:15  
休館日/日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日

朝一番  
情報満載!!

# 朝生とちぎ

月～金

7:00～8:10

ホームページ <http://www.tochigi-tv.jp>

